

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
運動障害と救急法 clinical management of sports medicine		2年	前期	月曜日・1限目
単位数	授業の形態		授業の性格	
2単位	講義		選択 (「健康運動実践指導者」資格取得希望者は必ず履修すること)	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス	
上本 宗唯	非常勤講師室	授業中に説明します	授業中に指示します	
授業の概要				
授業の前半ではスポーツ、介護、あるいは運動指導の現場において最低限必要な医学的知識をスライドによって概説し、後半ではその講義内容に関する小テストを行い解説を加える。スライドの内容は、各自のノートに全てを記述することを原則とする。小テストはこのノートの記述を見ながら回答することを許可する。この方法により反復学習と知識の整理を行うことが可能であり、確実な知識の習得を図ることができると考える。また自らが作ったノートにより、今後復習したり、さらに研究し続けることで知識を深めることもできる。				
授業の到達目標				
1) 現場で見逃してはならない症状を把握できるようにする。 2) 救急処置の重要性を知り、救急処置法の技術を実際に行うことができるようにする。 3) スポーツによる外傷とそのコンディショニングに対して説明できるようにする。 4) テーピングの意義が説明でき、その実際を行えることができるようにする。				
授業の方法				
スライドによる講義(60分)、その後小テスト(15分)、小テストの解説(15分)				
学習の成果				
1) スポーツ、介護、運動指導の現場で自信をもって、対応指導することができる 2) 救急処置法を習得することで一刻を争う救急の現場において迅速かつ積極的な行動をとることができる 3) スポーツによっておこる外傷に対して、適切な処置をすることができ、その予防についても指導することができる				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	運動中止の判定をどうするか?～どの時点で判断すべきか～			
第2回目	運動中止の判定をどうするか?～運動を中止すべき自覚症状～			
第3回目	運動中止の判定をどうするか?～運動を中止すべき他覚症状～			
第4回目	内科的な急性障害			
第5回目	内科的な慢性障害			
第6回目	救急蘇生法の基礎			

第7回目	救急蘇生法の実際(実習形式)		
第8回目	救急処置法		
第9回目	スポーツ外傷:捻挫		
第10回目	スポーツ外傷:骨折		
第11回目	スポーツ外傷:脱臼		
第12回目	スポーツ外傷:筋損傷		
第13回目	コンディショニング		
第14回目	テーピングの基礎と実際		
第15回目	期末試験とまとめ		
成績評価の方法と基準			
	評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度			
レポート			
調査報告書			
小テスト	60%		1回5点で計14回小テストを行う。基準は出席8割以上の正解者5点、出席8割以下の正解者3点、欠席者0点とする。ただし正当な理由があり小テストを次回講義に提出した者は3点とする。遅刻出席者は-1点とする
中間・学期末試験	40%		100点満点とし、40%に換算して評価する
発表内容(態度含む)			
その他			
教科書と参考図書			
履修上の心得・ルール			